

目指す学校像 「元気いっぱい 笑顔でつながる武蔵野小」

●地域の中心となり、三者（子供、保護者・地域の方々、教職員）が笑顔で過ごせる学校

目指す子供像

- よく考える子…何事も自分ごととして捉え、自ら学びに向かい表現を楽しめる子
- 思いやりのある子…むさしのリーダーシップを身に付け、自他を尊重し、大切にできる子
- 健康な子…基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身ともに活力に満ちた子

共感力・相手を受け止め、寄り添う力

自分の内側から変える。そして影響の輪を広げていく。

「エンパシー」を活用し、「インサイド・アウト」を実践して、子供たち同士、教員同士、教員と子供、学校と家庭・地域、武蔵野小と第三中学校、それぞれが本音で語り合える、風通しの良い関係を構築していきます。また、指導においては、共通認識、共通理解、共通実践を推進し、「チーム武蔵野」として一貫した指導を行い、時と場所が変わっても児童が戸惑うことなく、自信をもって行動できるよう安心感を与えていきます。

学びの基盤である「言葉の力」に注力し、「好き」を育み、「得意」を伸ばし、当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる児童の育成を目指します。

エンパシー
インサイド・アウト ・ 一貫した指導

1.基礎学力向上の充実

- ・コグトレ（認知機能向上プログラム）
- ・学習習慣の確立
- ・家庭学習の充実
- ・指導と評価の一体化

2.言語活動の充実

- ・「表現すること」を重点目標とした言語能力の向上
- ・図書館機能の充実
- ・話し合い活動の充実

元気いっぱい
笑顔でつながる
武蔵野小

A 情報活用能力の向上

B 生活習慣・食育の推進

C 地域と学び 未来につなぐ

D 安心感のある学校
自己有用感の育成

言葉の力

3.探究活動の充実

- ・自立した学習者の育成
- ・主体的に納得解を追求する力
- ・思考のためのツールの活用
- ・学びをつなげる

4.特別支援教育の充実

- ・なかよし学級
- ・ユニバーサルデザイン
- ・板書の一貫性
- ・子供ど真ん中の学校

考える力
感じる力
想像する力
表す力

むさしのリーダーシップ（5つの習慣）

- ①自分ができることを考える
- ②ゴールを決めて努力する
- ③みんなの幸せを考える
- ④相手の話を聞き考えを伝える
- ⑤協力して行動する

「むさしのリーダーシップ」を基盤とした児童の育成

- 日常の毎場面を啓発の場とし、**非認知能力**の向上を図り、**予測困難な時代**を生き抜く力をつけさせ、将来を担う人材を育成する（リーダー・イン・ミーの職員研修の充実）。
- 児童一人一人が主役であり、**自己決定力**を育み、**自己有用感**が高まる**指導**の工夫。

「コグトレ」を活用した認知機能の向上

- 朝学習や家庭学習で継続的に『コグトレ』に取り組み、「数える」「覚える」「写す」「見つける」「想像する」といった**認知機能**の向上を図り、**学習の土台**を構築する。

4つの充実

<p>1. 基礎学力向上の手立ての充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「コグトレ」を活用した認知機能の向上 ○ めあての明確化と構造化された板書（学習の流れ） ○ 朝学習 10 分間の確実な取組 ○ 金曜日の放課後チャレンジでの自信の創出 ○ 最終下校時刻の工夫による、放課後補習の充実 ○ 家庭学習の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年×10分+αの定着（決まった時間に実施） ・ 自己にあった学習の選択力の育成（自主学習） ○ 児童の実態を次の指導に生かす ○ 教科担任制（高学年） 	<p>2. 言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉の力を軸とした言語能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・対話的で深い学び ・ 教員は指導者からファシリテーターへ ・ ノートに残した思考の軌跡の活用の習慣化 ・ 表現する楽しさが体験できる安心感のある授業 ○ 語彙力の向上（辞書引き・漢字学習の一貫性） ○ 図書館は学ぶ所…調べ学習の拠点化 ○ 読書活動の充実（朝読書、読み聞かせ） ○ 学級会の話し合い活動・考え議論する道徳の充実 ○ 外国語活動、日本語指導の充実
<p>3. 探究活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら課題を設定し、学びを生かし働かせ主体的に学習対象と深く関わり、粘り強く課題解決に取り組む自立した学習者の育成 ○ 思考のキーワード、思考ツールの活用 ○ 各教科の学びと連動した探究的な活動を重視し、納得解を得られる、総合的な学習の時間 ○ 情報活用能力を活かした総合的な学習の時間 	<p>4. 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なかよし学級（むさしの学級交流）のさらなる充実 ○ 知的固定学級併設校の強みを生かした、障害理解教育の充実 ○ ユニバーサルデザインに則った環境・授業づくり ○ 子供の困り感に寄り添った校内委員会 ○ 特別支援コーディネーターを軸とした校内体制 ○ 関係外部機関との密な連携

4つの推進

<p>A. 情報活用能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1人1台端末の日常的な活用（毎日の持ち帰り） ○ ICT 機器との適切な距離感（情報モラル教育） ○ 発信を前提とした情報収集・情報整理能力の向上 ○ ICT の有効活用と家庭学習の在り方の模索 ※デジタルとアナログのバランスのよい有効活用 	<p>B. 生活習慣・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活リズムの基本設計…睡眠時間、メディア時間、早起き・早寝（体内時計を整える） ○ 「グッドモーニング60分」の定着 ○ 豊かなスポーツライフ…多様な動きの経験 ○ 「命をいただいている」意識をもたせる（食育）
<p>C. 地域と学び 未来につなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 郷土愛の醸成をねらった羽村学・人間学の充実 ○ コミュニティ・スクールを活用した社会とつながるプロジェクトの推進・人財バンクの活用 ○ 保護者・地域への授業支援の働きかけの充実 ○ 地域と共生しながら前に進む（子供は地域の宝） ○ 施設隣接型のメリットを活かした小中一貫教育 ・進学した子供が困らない共通指導・共通実践 	<p>D. 安心感のある学校、自己有用感の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子供が安心できる学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ レジリエンスの構築（失敗したらやりなおせばいい） ・ 「SOSカード」の活用 ○ 「チャレンジ」を楽しめる児童の育成 ○ 「失敗しない力」より「ピンチを切り抜ける力」 ○ 全学年の副担任制（みんなで育てる） ○ 中休みは子供と過ごし、児童理解を深める ○ スクールカウンセラーの有効活用

